



# 道央家族会会報



平成27年5月9日（土）10時より、北広島市芸術文化ホールにて、道央地区知的障がい児・者家族会総会が開催されました。初めに「道央地区知的障がい児・者家族会 畑会長」の挨拶から始まり、次に「道央知的しょうがい者福祉協会 荒会長」に来賓としてのご挨拶をいただきました。荒会長のお話は、ちょっとした小講演会のようなものでした。福祉協会としての取り組みは私たち家族会にとっても感銘深いものがありました。施設と家族会とが両輪となって活動することの意義を感じさせてくれました。

7家族会と1賛助会員、総勢28名が出席しました。総会で承認された今年度の基本方針と重点事項を掲載します。前年度を踏襲する内容となっていますが、継続して取り組むべき課題だと思われます。

規約の一部改正がなされました。会員と賛助会員との定義が明確な内容になりました。さらに会長専決事項が設けられました。

今年度は役員改選の年で、前役員+新役員2名が承認されました。どうぞよろしく、お願いいたします。



## 道央地区知的障がい児・者家族会 平成27年度 事業計画

### [基本方針]

障がいのあるすべての人々が安心して暮らせる社会を目指し、家族会同士の結束を強め、北海道知的障がい児・者家族会連合会と連携しつつ、道央地区知的障がい児・者家族会としての活動を展開する。

### [重点事項]

1. 入所支援施設、通所、グループホーム等を利用者が自由に選択できる福祉政策の実現
  - (1) 障がい支援区分の廃止の要望
  - (2) 利用者本人の特性に応じた支援体制の要望
  - (3) 入所支援施設、通所、グループホーム等の利用者が安心して暮らせる24時間支援体制の要望
  - (4) 利用者の高齢化に対する支援体制の要望
  - (5) 90日を超える入院による入所支援施設との解約の不安を解消し、退院時受け入れ態勢の要望
  - (6) 災害時の避難対策と支援体制の要望
2. 研修会や懇談会を通じ、各家族会会員の交流を図る。
3. 道央地区知的障がい児・者家族会の会報の発行  
年2回、発行する。
4. 未加入家族会への働きかけ  
情報を提供しながら、状況に合わせた対応をする。
5. 「全施連全国大会in神奈川」の協力体制  
10月20日（火）～21日（水）開催予定の全国大会への参加呼びかけを行う。



5月24日(日)～5月27日(水)の3泊4日で、沖縄に行ってきました。共栄緑の郷主催で、利用者34名、保護者28名、支援職員23名、ツアー・コンダクター1名、合計86名での旅行です。利用者が高齢になってきて、保護者はさらに高齢になって、支援職員の負担が増大している昨今です。大型旅行を計画すること自体だんだん難しくなっています。「これが最後かも知れないな～」などと思いつつも、とにかく「みんなでいっぱい楽しもうじゃありませんか！」と意気込んでいました。

沖縄地方はちょうど梅雨入り宣言がなされ、お天気予報も当然のように雨でした。北ひろしま福祉会の集合場所では顔を合わす誰もがお天気の心配をしていましたが、現地に到着してから最終日までの4日間のお天気は予想を覆して恵まれたものになりました。みなさん、普段からの心がけが良かったのでしょうか！

到着日は大広間で、沖縄の海の幸やお肉など、盛りだくさんの豪華なディナー・パーティ。特別にマグロの解体ショーも実演され、新鮮なお刺身は絶品でした。シークワサー泡盛を体験しました。まるでジュースのような爽やかな飲み口で飲み過ぎには注意です！ その他、いろいろな飲み物が用意されていました。宴会が盛り上がりきた頃合いを見計らったかのように「沖縄の獅子舞」が登場、みんな大喜び！ 沖縄の伝統芸能「エイサー太鼓」のダイナミックなパチさばきと、唄も披露されました。エイサーの演奏と唄に合わせ、演奏者の指導の下「カチャーシー」という沖縄の踊りを利用者、保護者、職員、みんなで舞いました。これが実に楽しいのです！ 何故か、全員が喜びを共有する感じがするのです。



2日目は「美ら海水族館」に行きました。大パノラマ・ビューです。我が物顔でゆったりと泳ぐ巨大ジンベイザメに驚嘆し、優雅に美しく宙を舞うように遊泳するイトマキエイに見惚れ、無数の魚たちの競演に感嘆し、時が過ぎるのも忘れてしまいそうでした。

3日目は「自由行動組」と「中北部めぐり組」とに分かれて行動しました。ホテルのプライベート・ビーチで、ビーチ・パラソルの下、リクライニング・チェアに寝転びながら、日陰でも眩しい沖縄の海を存分に味わい、強すぎる紫外線で肌が焼けました。「ドラゴン・ボート」に乗って沖まで航行し、ガラスの船底からサンゴ礁を眺めたり、魚たちが餌を求めて寄ってくるのを眺めたり、大きな魚が姿を現すと歓声を上げたりしました。青い海とエメラルド・グリーンの海との両方を同時に楽しみました。女性ジェット・スキー操縦士が引っ張る「バナナ・ボート」も体験しました。彼女の過激な操縦により、約4名が海に放り出されてしまいましたが、海に落ちた利用者1名と支援職員1名は、何故かニコニコ顔です。支援職員は「良い経験が出来た～！」と喜んでいました。「中北部めぐり組」は、古宇利オーシャン・タワー、今帰仁城跡、やんばる市場、オリオン・ビール工場などへ出かけました。貴重な体験をされて「よかった～！」の連発です。

4日目、楽しかった非日常は「あつという間」に過ぎ去ります。美味しい幸せと素敵な思い出を胸に、みんな笑顔で帰途に就きました。家族みんなが一緒に楽しむことができた沖縄旅行。支援して下さる職員の方々がいなければ成り立ちませんでした。職員の方々ひとり一人に感謝です。ありがとうございました。

The End